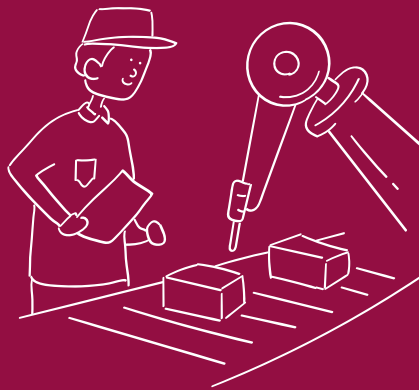
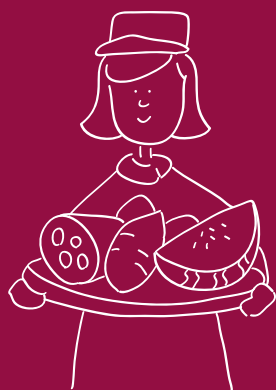


第6章

活力ある魅力的なまちづくり

6次産業化や特産品化等による農業生産性の向上、圏央道を活かした商工業の活性化、雇用の場の確保、霞ヶ浦を活かした魅力的な観光の振興等、地域特性を活かし、職住近接の賑わいあふれるまちづくりに取り組みます。



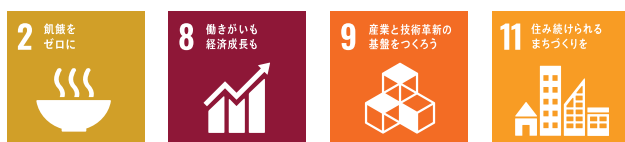
第1節 賑わいのあるまちづくり

- 1 活力ある農業の振興
- 2 商工業の活性化
- 3 地域資源を活かした観光の振興

■章の指標

指標名	方向性
産業の賑わいにより活力があると感じている町民の割合	↗

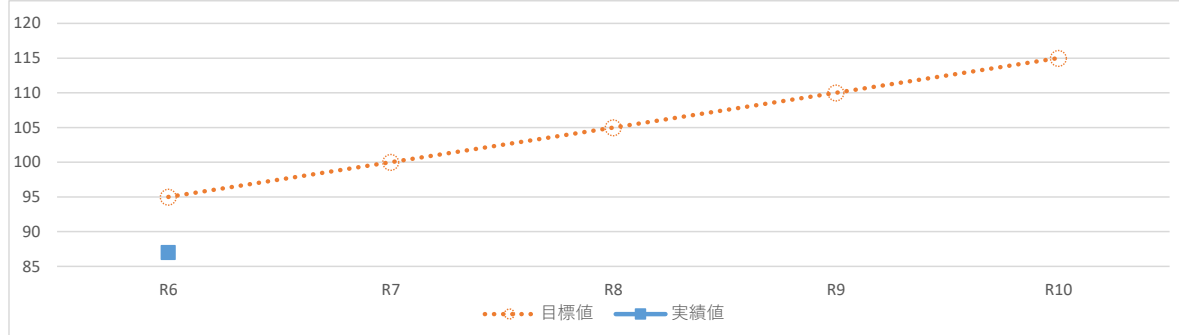
■この章に特に関連の深いSDGsのゴール



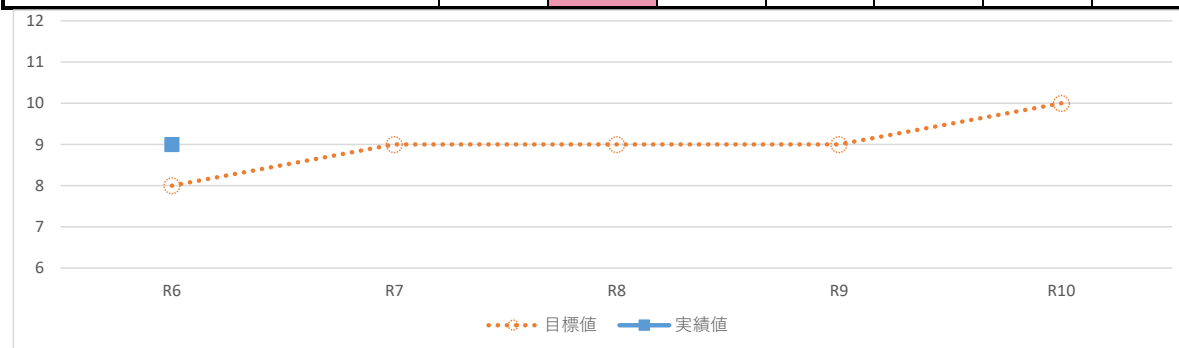
第6章 第1節 第1施策		関連する SDGs					
節	賑わいのあるまちづくり						
施策	活力ある農業の振興						
目指す姿	農業の持続的な発展のため、生産性向上の取組や、農林水産物のブランド化による魅力度向上により、意欲ある認定農業者や新規就農者・農業後継者が増加し、地域農業の振興と活性化が図られています。						
関連する課	農業振興課 学校給食センター				関連する 個別計画		

施策の現状と課題	認定農業者の確保については、新規就農者等から認定農業者への誘導を図る。耕作放棄地の解消については、制度のPRを図り計画的に解消を図る。新規就農者支援については、関係機関と連携を図りつつ、安定的な農業経営の定着に向けて支援を図る。農業基盤整備事業については、土地改良組合と連携により圃場整備を推進することで担い手の作業の効率化と生産性向上の支援を図る。
----------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
認定農業者数	人		90		115		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		87					



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
農業体験事業のメニュー数	種類		7		10		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		9					



施策の進捗	今後の取組方針
C	担い手（認定農業者）については、中長期的に農業経営を実践する意欲ある担い手を地域計画に基づく地域の話し合いにおいて明確にし、離農等による優良農地を計画的に集約し、地域における農地の有効活用と荒廃農地の防止に努めるとともに、担い手の規模拡大、農業所得の向上に寄与する。関係補助事業については積極的に活用を促し支援を図る。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	学校給食における県産食材の割合は、高い水準を維持している。目標値に近づけるよう、献立作成の工夫を継続していく。 町の基幹作物である水稻作に関しては、国の補助事業に準じて適切に支援を図っている。また、畑作については、特産品であるスイカ、メロン、トウモロコシ、レンコン等の生産維持を始め、町で産地化を推進している常陸秋そば、馬鈴薯、甘藷については、生産拡大、安定生産に向けて関係機関と連携しながら積極的に支援を図り、地域農業の活性化を推進している。
R7以降	

今後発生が予測される課題	
気候変動による農産物の安定供給と価格変動に伴い、需要と供給のバランスが維持できるか懸念される。	

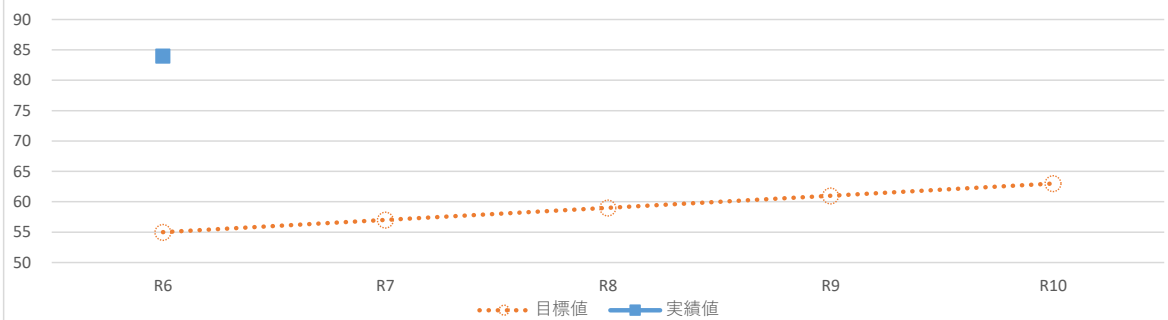
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	担い手の減少・農地の有効活用対策として、関係機関と連携し地域計画の策定を進め、農地の集積・集約化や担い手の発掘育成を推進し、農地の有効活用、産地化、農業振興を図っていく。また、町の農産物を積極的にPRするため大学等関係機関とも連携し、新たな農業体験の推進に取り組む。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
農業の生産性の向上	担い手为中心となり、地域の特性を活かした農産物の生産の定着と産地化が促進されています。	農業振興推進事業
優良農地の保全と担い手への集積・集約化	農用地の効率的かつ総合的な利用が図られています。	農業集積加速化支援事務 耕作放棄地再生利用対策事務
担い手の確保・育成	次世代農業の担い手となる新規就農者や農業後継者が確保・育成され、地域農業の振興と活性化が図られています。	新規就農者支援事業 農業後継者支援対策事務
生産基盤の整備と保全	地域資源の適切な保全管理が推進され、多面的機能の発揮と農村の振興が図られています。	多面的機能支払交付金事務 農業生産基盤整備事務 石川地区県営土地改良事務
地産地消の推進	地域で生産された農産物を通して、農業の振興と町民の健康で豊かな食生活が営まれています。	食育活動事務 農業体験事務

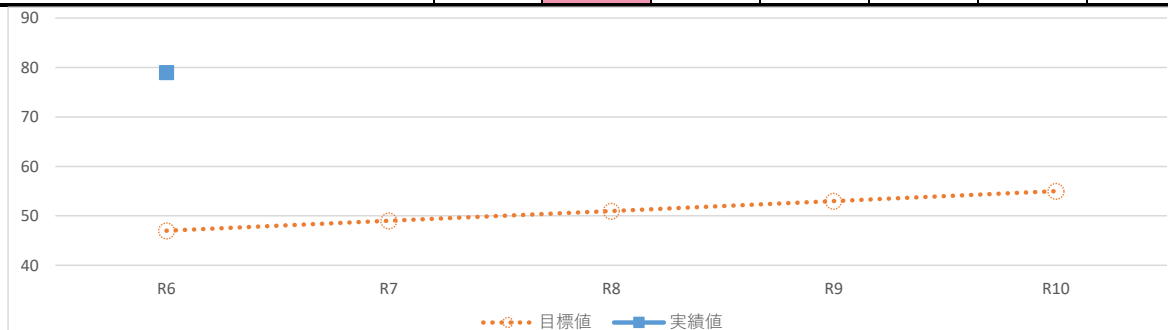
第6章 第1節 第2施策		関連する SDGs	8 質の高い雇用を創出 9 国内産業の競争力を強化する
節	賑わいのあるまちづくり		
施策	商工業の活性化		
目指す姿	圏央道等の広域的なポテンシャルにより、新たな企業の立地や既存企業による設備投資等が進むとともに、大企業と中小企業との連携等により地域産業の活性化も進み、雇用の創出と地域経済の活力につながっています。		
関連する課	商工観光課	関連する 個別計画	

施策の現状と課題	商工事業者向けの支援制度を提供しながら町内商工業者の振興を図っているが、一部利用が限定的なため、更なる周知が必要である。町内の業務用地については、ほぼ売却されているが未利用地があるため、県と連携しながら早期立地へのフォローアップが必要である。また、企業の求人が充足していない状況であるため、人材確保の支援が必要となる。
----------	---

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
町創業支援の利用者数	者	53		63		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		84				



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
就職転職フェアの参加者数	人	43		55		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		79				



施策の進捗	今後の取組方針
B	クラウドファンディング活用支援補助金や新商品開発等支援補助金等の各種支援制度について、さらなる利用周知に努めながら町内商工業の振興を図る。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	補助金の交付や就職転職フェアの開催等により、産業活動の活性化が図られると共に、働く町民が増加することにより所得が向上した。
R7以降	

今後発生が予測される課題
全国的な労働人口の減少により、更なる人材不足になることが予測されるため、関係機関との連携を一層深め、人材確保や生産性向上等の支援を継続的に行う必要がある。

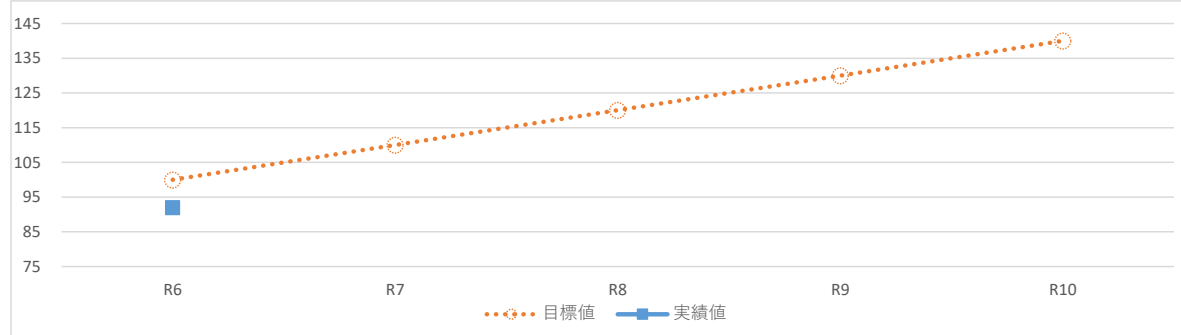
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	6次産業化を含む新商品開発を促進するため、支援制度を積極的に周知することで、町特産品の拡充を図る。 国等の関係機関との連携し、町内企業の人材確保や生産性向上等の支援に取り組み、地域経済の活性化を図る。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
商工業環境の充実	新規事業等に取り組む事業者や町内で開業する事業者が増え、様々な産業活動が活発に行われています。	商工振興事業 創業支援事務 中小企業金融支援事務
企業誘致と連携体制の強化	新規企業が立地するとともに、町内企業も人材確保や設備導入等により生産性が向上し、地域経済が成長しています。	企業誘致事務 雇用促進事務
雇用対策の促進	町内で働く町民が増え、町民の所得が向上しています。	雇用促進事務 企業誘致事務

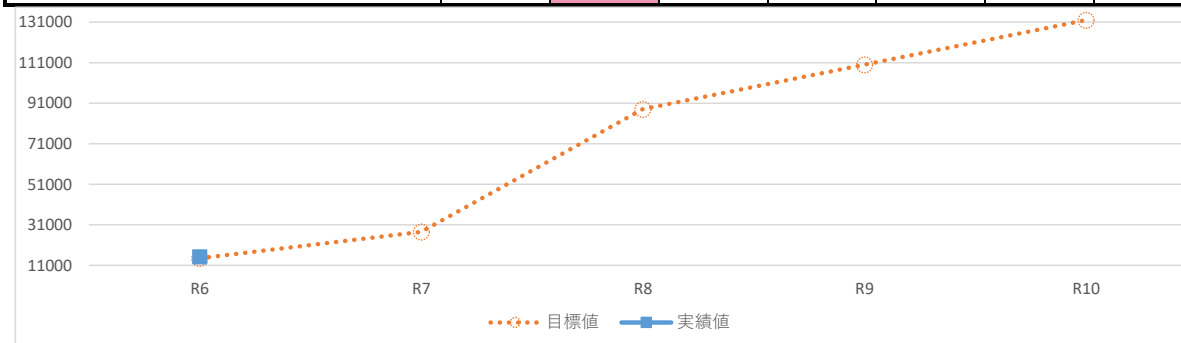
第6章 第1節 第3施策		関連する SDGs	8 働きがい と経済成長	15 陸の豊 かさを保つ
節	賑わいのあるまちづくり			
施策	地域資源を活かした観光の振興			
目指す姿	つくば霞ヶ浦りんりんロード、霞ヶ浦が持つ雄大な自然景観、予科練平和記念館、あみプレミアム・アウトレット等、ポテンシャルの高い地域観光資源が活かされ、多くの観光客が訪れるまちになっています。			
関連する課	商工観光課 道路課、予科練平和記念館、政策企画課		関連する 個別計画	

施策の現状と課題	地域資源を活用した各種イベントの実施や町内誘客施設の紹介や催しにより、町の魅力向上と賑わいの創出に取り組んでいる。また、つくば霞ヶ浦りんりんロードの整備により、霞ヶ浦湖岸の親水性が向上している。さらなる親水性向上を図るために、国体跡地の利活用方針についても整理が必要である。
----------	---

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
レンタサイクル貸出数	台	80		140		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10
		92				



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
あみコミュニケーションセンターの来客数	人	11,108		132,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10
		15,268				



*あみコミュニケーションセンターが閉所のため、R7.10月からは観光物産館の来館者で計測する

施策の進捗	今後の取組方針
B	新たに発足した一般社団法人あみ観光協会において、様々な観光振興事業に取り組めるよう、適切な運営支援と有益な観光関連の情報提供を行う。また、霞ヶ浦湖岸の親水性向上の取り組みにおいては、引き続き、サイクリングロードの空間整備と国体跡地の利活用検討に努める。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	地域資源を活かし、PRに取り組むことで、地域の魅力向上と町内誘客施設やスポットへの誘客促進を図った。また、サイクリングロードの空間整備と国体跡地の利活用検討に取り組むことで、霞ヶ浦湖岸の親水性向上を図った。
R7以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
特になし。

施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	令和7年4月に一般社団法人あみ観光協会が設立されたことから、同協会と連携を図りながら観光振興施策に取り組む。 つくば霞ヶ浦りんりんロードの整備を見据え、サイクリングロードの周辺環境の魅力向上を図る。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
観光資源の活用と発掘	町の魅力ある観光資源を活用・PRすることで、地域の観光資源が活かされ、町の観光スポットへの誘客が図られています。	観光振興事業 教育普及事務 あみコミュニケーションセンター事業
湖岸親水ゾーンの整備と活用	安全で快適なつくば霞ヶ浦りんりんロードを通して、多くの人が町に訪れ霞ヶ浦に親しんでいます。	サイクリングロード整備事務 国体跡地利活用検討事務